

同志社大学

2016年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2017年 3月 17日提出

所 属	職 名	氏 名
免許資格課程 センター	准教授	田中 希穂
研 究 題 目	縦断的研究による日本人大学生の留学動機・グローバルマインド・就職動機の関連	
研 究 成 果 の 概 要	<p>海外留学に関連する国内外の研究を見渡してみると、外国人留学生を対象とした研究は多いものの、日本人学生の海外留学に関する研究はいまだに少ない。日本人留学生を対象とした研究であっても、コミュニケーションスキル（語学力）を中心としており、動機づけについては、理論的基盤を背景とした研究が見当たらないのが現状である。そこで、本研究では、内向き志向といわれている日本人学生の海外留学を促進し、グローバルキャリアの発達を目指した教育システム構築を試みるために、日本人学生の実態を検証する。そのために、(a) 日本人大学生のグローバルマインド・留学志向は低いのか（日本・オーストラリア・シンガポールの3カ国による国際比較）、(b) どのような留学動機が留学の成功体験をもたらし、グローバルマインドの発達を導くのか（留学を通じた縦断的研究）、(c) 留学経験は就職動機にどのような変化をもたらすのか（グローバルキャリア志向の発達の変化）について検討することを目的とする。</p> <p>平成28年度は、(a)「日本人大学生の留学志向・グローバルマインドは低いのか？」を検討するために、従来の研究を踏襲し、主として、動機づけの基礎研究を展開し、留学動機を測定する尺度およびグローバルマインドを測定する尺度の作成に取り組んだ。「留学動機尺度」は自己決定理論（Deci & Ryan, 2002）に基づく既存の動機づけ尺度をベースに、海外留学から帰国した学生に実施したインタビューなども参考に、項目作成を行った。「グローバルマインド尺度」の構成にあたって本研究では、グローバルマインドの一側面である多文化アイデンティティを取り上げた。「多文化アイデンティティ尺度」は、民族アイデンティティ尺度（MEIM; Phinney, 1992）を参考にしつつ、他の国内外の研究のレビューを行い、項目作成を行った。作成した項目（日本語）を英語に翻訳・バックトランスレーションの作業を行った後、オーストラリア・シンガポールの研究協力者に項目内容の検討を依頼し、項目の精査を行った。作成した2つの尺度を用いて、現在・シンガポールで予備調査を実施している。また、日本においても語学研修を目的とした数週間のプログラムに参加した日本人学生を対象に予備調査を実施している。</p> <p>今後は、予備調査のデータを分析し、項目を修正した後、本調査を実施し、日本の学生の現状を把握するとともに、留学動機がグローバルマインドの変化および異文化適応におよぼす影響や、就職動機・グローバルキャリアの発達との関連などについて、国際比較をしつつ、検討していく。</p>	